

Drug & Alcohol Addiction Rehabilitation Center

潮騒通信「どっこい生きてます！」

3・11東日本大震災から1年たって思うこと

日本の災害史を根本から塗り変えたあの3・11東日本大震災から、早くも1年が経過しました。被災地の一部ではようやく復興の槌音が響くようになりましたが、まだまだ手つかずのところもあるようです。巨大地震に大津波、それに厄介な原発事故への対応が人々を苦しめ、がれきの処理一つをとっても受け入れを拒否する自治体が相次いでいます。復興に向け人々のつながりや絆が強調されながら、いざ自分たちの所に問題が持ち込まれると、簡単に「分かち合い」の精神をかなぐり捨てる姿には複雑な思いです。潮騒JTCも「活動は理解できるが、ここへの進出は困る！」という総論賛成・各論反対の声に苦しんできた経緯があるだけに、この困難をどうすれば共有できるのか、心密かに悩みます。

新聞報道によれば、被災地では目に見えない疲弊や徒労感が広がり、住民に心的外傷後ストレス障害（PTSD）やうつ、不眠症状などに加え、アルコールやパチンコに依存する人たちが増えているといわれています。既に長期化した避難所でのプライバシーが保てない生活段階から、被災者の飲酒を巡るトラブルは専門家の間で問題視されていましたが、その後なんとか仮設住宅などに入居できたものの従来のコミュニティが失われているため、周囲からの孤立化がアルコールやパチンコへの依存を高めているようです。1995年の阪神大震災でも、家や仕事を失った被災者がアルコール依存症に陥ったケースが多数報告されています。家族も財産も仕事も生きていくために大事なものを何もかも失い、一人きりの孤独な身の上になって生きる希望や目的を見いだせない状況に置かれたら、人はぶつけようのない怒りや悲しみ、苦しみをどう解消したらいいのでしょうか？

救われない思いを癒すというのは、言葉でいうほど簡単なことではありません。そうした立場に追い込まれた人々が、目の前にある手っ取り早い「快楽」に身をゆだね、依存する姿を第三者的に批判するのは意味をなしません。孤立化や心の空洞化を防ぐ、具体的な手立てが早急に求められます。ただ、依存症に陥ってしまうと問題は厄介です。そういう時にこそ、私たちの経験を生かしてほしいのです。世間からは「好き勝手やった挙げ句にヤク中やアル中になったくせに…」と思われがちですが、私たちも依存症という病の根本には心に深い孤立感を抱えています。だからこそ回復の柱には「仲間との絆」をすえて、孤立化することへの危険性を意識し、日々のミーティングで深い内省へとつなげているのです。私たちのようなマイナス人生からの回復が、夢や希望を失った被災地の人々に何らかの形で役立てるなら社会への恩返しにつながり、私たちもより高次の回復へと導かれるというものです。

（施設長 栗原 豊）

SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2012年

3月号 一部100円

Contents

- P1 大震災から1年に思う
- P2 ファイザーPに支援の輪
- P3 職業訓練に確かな手応え
- P4 パソコン教室に熱い期待
- P5 頑張ってますパソコン教室
- P6 家屋解体から見えた課題
- P7 回復ストーリー・チョーさん
- P8 近藤恒夫さん講演 NO・10
- P9 受刑者の皆さんからの便り
- P10 しおさい文芸コーナー1
- P11 しおさい文芸コーナー2
- P12 行事予定&献金・献品



潮騒ファイザープロジェクトの
職業訓練（樹木伐採作業）でチェ
ーンソーを使い、汗を流す入寮者

ファイザープロジェクトに支援の輪

3 月に入り、潮騒 JTC が独自に取り組むファイザープロジェクト（薬物・アルコール依存症者の自立支援および就労プログラム開発モデル事業）が本格的に取り組まれています。うれしいことに支援者の中から雑木林の伐採や荒れた農地の開墾、新たな農地提供などの協力申し入れがあり、本プロジェクトのワーキンググループ会議で協議した結果、これらをプロジェクトの実施計画に組み込み、職業訓練メニューとして厚みを加えることになりました（次号で詳細を報告予定）。そのため事業初年度は重機オペレーターの育成研修と、これとドッキングした農業関連の取り組みが大きな柱になりそうです。



当初計画では、3 月は農作業プログラム（田起こしなど）が中心でしたが、支援者の協力で雑木伐採や農地開墾（次号で詳細を報告予定）作業が入り、関連する重機操作の訓練にもウェイトを置くプログラム構成となります。



職業訓練に確かな手応え～参加者の感想から

■ファイザー事業を通して自分を変えたい

自分はこれまでも施設側が提案するボランティアの作業プログラムに参加してきたので、今回のファイザープロジェクトにもほとんど違和感なく参加しています。でも、まだまだ朝は寒く、「きょうだけは休みたいな」と思う日もありますが、仲間の力で毎日、プロジェクトに関わる作業に参加しています。

正直なところ、自分の今の回復状態では社会に戻っても、すぐにクスリ（覚せい剤）を使ってしまうのではないかと不安がつきまとい、ふと作業の合い間に薬物の事を考えてしまう場面があります。

そうはいっても作業が始まったら、あつという間に 1 日が終わっている感じです。改めて依存症者にとって仕事の重要性を感じています。少しでも、クスリに頼らない自分を取り戻すためにも必要な、大切な 1 つのプログラムだといえます。ファイザーの支援を得ることができた意義は大きいと思います。

潮騒ファイザープロジェクトの職業訓練プログラムに加われることは、自分にとってありがたい限りです。自分にできることを、自分のペースでやらせてもらい、なんとなく力を与えてもらっているように思います。このプログラムを通して、もっと自分を変えられるようにしたいと考えています。仕事をしながら一緒に働く仲間の姿を見ては、自分も励まされています。

（キク）

■きつくても強い責任感で仕事に向かう

ファイザー事業（職業訓練）で、鹿嶋市内の丘陵地（区画整理地）にある雑木林の伐採作業に参加しています。昔で言えば、木こりの仕事です。急傾斜地にある雑木林で伐採した直系 60、70 ㎝ほどもある大木（主にシイの木）の枝を払い、それらをまとめて紐で縛り、トラックに載せて 4、5 分のところにある保管場所に移す——という一連の作業です。

かなり体にきつい作業だとは覚悟していたのですが、仕事がとても単調なのに加え、私は半年ぐらい体を使っていなかったことから疲れが激しく、挫折感から心が折れそうになりました。「これではダメだ!」と思い直し、気合いを入れて頑張るのですが、しばらくするとまた「これは、やばいかな…」と、つい弱音を吐こうとする自分がいます。アディクト特有の甘えだと批判を受けそうですが、そのように気持ちは揺れながらも、なるべく自分のペースを維持しながら作業に取り組む日々です。私は幸いにも人一倍責任感が強いのが取り柄？ なので、これが私の持続の原動力になっている感じです。もっともアディクトの場合あまり強すぎると返ってマイナスに作用しますが…。

この強い責任感がなければ、私の場合、自分で自分の生活を律したり、社会人として人間関係をうまく築けません。いつまでたっても社会に居場所を見いだせない、ただのダメな薬物中毒の男で終わってしまいます。その意味で、このきついと思える仕事に責任感を持って向き合うことは、もしかしたら自分を変えていく方向につながるの希望を抱きます。

仕事に没頭しながらも疲れて手を休めたりすると、一度は社会人だった自分をふと思い出し、良いことや悪いこと、仕事のことで、そして苦勞を掛け通しだった母親のことがまぶたに浮かびます。今の私にとって、過去の埋め合わせはまだまだ先の話ですが、何事も自分のためと思い頑張っています。

取り組みは始まったばかりですが、今回、自分を変えることにつながるファイザープロジェクトに参加している意味を自分なりにとらえ返し、いつかは社会に戻る日を夢見ています。

（ナカ）

本格スタートのパソコン教室に熱い期待



このチャンスを生かしたい

パソコンを本格的に学習するのは今回が初めてです。「60 の手習い」という言葉もあるので、くじけずにキーボードを叩いています。まだ始まったばかりで、受講生の仲間の皆さんについていくのに必死で、少々気が滅入ったりもしています。それでも、この与えられたチャンスを無為に過ごすことなく、いただいた時間を大切に使い、パソコン習得に関する知識や技術を

身につけたいと思います。このような時間を頂いたことに感謝しています。

（シマ）

ロートルながらも少しずつ向上

60 歳を過ぎてからの手習い、というより指先や頭への刺激という意味合いでパソコン教室に参加しています。まだ元気で仕事をしていた頃に比べると、アルコール依存症になって末梢神経や指先、足先が少々震えたり、力が入りにくいという影響があるのですが、ロートルながらも思いきって教室への参加を決意した次第です。仲間に後れを取らないようにと毎回、悪戦苦闘していますが、講師の佐藤先生の優しく、丁寧な指導のお陰で少しずつですが、覚えられています。

「ジョブトレーニングセンター」の施設名が示すように、職業訓練に関する実践的なプログラム開発は潮騒 JTC 開設以来の悲願です。それだけに今回、ファイザーという世界的な製薬企業の支援を得られたことは大きなチャンスです。これを生かして、仲間とともに就労に向けての資格取得や技術習得に努めたいと考えます。依存症の回復を目指す入寮者一人ひとりが、本当の意味での自立と社会復帰について考えながら、それぞれの夢や希望につながるよう施設を挙げた取り組みにしてほしいと願います。（コバ）

ブレイクタイム・休憩コーナー

◆「私も自分の弱さを認め、魂を磨いていきたい」◆

今年の 1 月に宇都宮市で開かれた栃木ダルク主催の「アディクションセミナー」で、潮騒 JTC の責任者夫妻とご縁があった。私はダルクやセルフヘルプグループのことを知りたいと思い、3 月 9 日から 11 日までの間、施設見学をさせていただいた。

ミーティングでは、それぞれ思い思いに話をしていた。自身の生きづらさを仲間に話すことによって、自分自身を見つめているようであった。また、過去の過ちを認め、仲間に語りかけることにより、傷ついた魂を癒し、自分と相手を大切にすることを学んでいるように感じた。

認めたくない過ちを受け入れることが回復の第一歩であることを学ぶことができ、貴重な時間であった。12 ステップは、生きていく上でとても役に立つと思う。私も自身の弱さを認め、魂を磨いていきたいと思った。

（栃木県壬生町、福井歩笑さんからの便り）

ニがんばってます！パソコン教室ニ

潮騒ファイザープロジェクトで、入寮者を対象にした職業訓練メニューとして比較的希望の多かったパソコン教室が順調に進んでいます。本教室はパソコン関係スキルの習得を目的に、2月からスタートしました。会場は潮騒 JTC が活動拠点としている鹿嶋市まちづくり市民センターのパソコン室を利用して、毎月 3～4 回実施しています。参加者はキーボードに初めて触れる方、

すでにブラウザ上で幅広いですが、基本カナ、漢字、英単語入力に馴れてもらえりを用いての簡単な

現在はワープロ操作回に熱心な個別質問積極的な取り組みをいる機器は不特定多



の操作を経験している方な本練習として平仮名やカタや短い例文など、特に文字るよう、当初はメモ帳アブ文字入力をしていました。作まで進んでいますが、毎も多く、参加者の自立への実感しています。使用して数の方々が使う共用パソコン

ンということもあり、入力したデータを本体に保存できない等の制約もありましたが、潮騒側から USB 型外部メモリを人数分購入してもらってデータ保存の仕方も解決するなど常に気を使っていたでいます。近い将来は潮騒で毎月発行しているニュースレターを、自発的に編集できるレベルまでにと考えています。ご期待下さい。写真撮影の現像やイラスト制作、DTP 等でパソコンを普段より使う私ですが、できるだけ例を用いた分かりやすい指導を心掛け、社会復帰を意識しながら、自力での生活を営めるようにするプログラムとして、微力ながらも社会復帰の一助になればと考えています。

（講師・佐藤修）

練習用が不足しています。使わない中古パソコンを献品してください！

現在取り組んでいる潮騒ファイザープロジェクトのパソコン教室ですが、会場や講師の関係から集中講義が組めません。そのため普段の入寮生活でパソコンに触れ、親しむ機会を多くしたいのですが、残念ながら潮騒には事務局用の専用パソコン以外に入寮者が練習用に気軽に使えるパソコンがありません。

今後、入寮者が社会復帰して職業に就くためにも、勉強中のパソコン技能を我がものとするために、ご自宅に眠っている中古パソコンや不要になったパソコンがありましたら、ぜひ献品をお願いします。ノートやデスクトップなど型は問いませんが、普及しているウィンドウズ XP 版以降が有難いです。ご協力を宜しくお願いします。

プラクティス・メイクス・パーフェクト（習うより慣れる！）——語学の習得もそうですが、いくら学校で学んでも実際に毎日使っていないと実用に耐えません。パソコンも本で読んだり、講習を受けて知識として頭に蓄えても意味をなしません。普段から慣れることが大切です。

パソコン教室に参加している入寮者の練習用に、不要になった中古パソコンがありましたら、献品願います。



作業の継続と大型特殊免許の取得を～家屋解体作業から見た課題

2 月初めに実施した潮騒ファイザープロジェクトの家屋解体の職業訓練について、取材してくれたフリージャーナリストの崎山勝功さんが、以下のような提言をしてくれました。

※

※

※

家屋解体は一部に技能を伴うものの、作業の大半が単純作業なため、技能の蓄積が難しい側面がある。今回の職業訓練でも指導に当たったベテラン職人が「重機を使えば 2 時間で終わる」と言うほど、重機が使えない特殊な事例（細い路地の家屋など）でもない限り、手作業での家屋解体の需要は難しい。



しかし、見方によっては「細かなニーズに応える」という形で仕事の開拓ができれば、ニーズを掘り起こせる可能性はある。こうした肉体労働（単純作業）の仕事だけでは、再就職による社会復帰が極めて難しい現状がある。例えば土木・建設現場では、ショベルカー（通称・ユンボ）などの建設機械を動かす大型特殊免許が無ければ就職は難しい。免許が無い場合は、職人のアシスタントという形での労働が可能だが、技能の蓄積は困難だろう。

倉庫などの運輸・物流現場では、日雇い派遣などの非正規労働者が多く働いているが、彼らが行うのは「ピッキング」という一種の仕分け作業や、コンテナからの荷降ろしが主である。フォークリフト免許があれば比較的高い給料がもらえるが、そうでなければ時給 800～900 円にとどまるため、自立生活は難しい。また、多くの職場では作業スケジュールに基づくノルマが設定されているため、かなり厳しい労働環境にある。

どちらにしろ、ダルクの世界観とは真逆の、「経済効率」や「ノルマ達成」を求める世界なため、入所者が厳しい労働環境になじめずにアルコールや薬物に再度手を出す危険性が考えられる。しかし、社会復帰を考えるならば、現在中学校の教育現場で導入されている「職場体験学習」に似せた形で、ゆっくりと時間をかけた形で職業訓練を進めたほうがいいのかと考える。時間や予算が許せば、資格取得の手助け（例・大型特殊免許などの運転免許取得のための学科の勉強）などがあれば、今後に生かせるだろう。

今回、屋根の上での高所作業があったが、できれば労働法令に沿った形での安全対策を取ることが望ましい。今回の作業は平屋建ての小屋だったが、2 階建て家屋での作業などを考えると、安全対策を十分にする必要がある。どのような仕事も「一回で覚える」のは不可能なため、数回にわたって作業をさせることが必要になる。その際には指導はダルク内部の職務経験者が行うのが望ましいと考える。今後も無事故でファイザープロジェクトを推進し、どうか実り多いものにしてほしい。

我が回復ストーリー……（チョーさんの巻き・上）

=失明寸前でアルコール依存症の怖さ知る



私、長澤茂守（アノニマス名はチョー）は昭和28年7月15日生まれ。あと1年で60歳になろうとしています。静岡県富士宮市出身です。私がアルコール依存症になったのは約2年前からです。次第に酒量が増えて酒びたりの毎日となって、仕事（交通誘導員）にも支障をきたすようになりました。ついに会社をクビになり、行きついたところは精神科病院でした。

入院した時は体重が45キログラムまで減り、げっそりと頬がこけ、入院の際には名前も言えず、文字も書けない状態でした。アルコールで頭が狂っていたのです。案の定、診察の結果、アルコール依存症と診断されました。

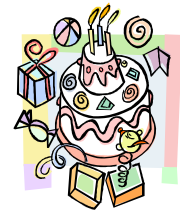
なんとか治療に専念して3カ月もすると、酒で侵されていた体もだいぶ良くなりました。しかし、快方に向かっていた状況が一変しました。退院を間近にしたある日、病棟で目覚めると光が見えず、目の前が突然グリーン一色になりました。何が起きたのか、その異変に頭の中がパニックになり、このまま目が見えなくなる…、というこれまで経験したことのない恐怖感に襲われました。

病室の仲間がすぐに看護師を呼んでくれて、近くの眼科医で診てもらうことができましたが、なんと診断結果は網膜はく離でした。「すぐに手術をしないと失明する恐れがある」とのこと。その医師に紹介状を書いてもらい、都内の順天堂大学病院で2回手術をしました。その際、担当医から「アルコールの飲みすぎで目が悪化していた」と言われ、それほど自分の体は蝕まれていたんだ、と失明寸前の経験をしたことでアルコール依存症の怖さを身を持って思い知りました。

手術は成功して目も正常に近くなり、元の精神科病院に再入院して回復に向けて取り組むことになりました。約3カ月の入院により、すっかりアルコールも抜け、目の状態も良くなり、退院後のリハビリ施設として潮騒JTCを紹介され、まもなくここに入寮することになりました。

（以下、次号）

3月誕生日の仲間たち



<3月生まれの仲間たち>

タツヤ ノリ
ヤスベエ シマ ヒロ



続・ダルク25年の歩みから～

近藤恒夫さん講演

連載第10回

ヤク中に嘘を言わせるのが日本の裁判所？

●地域のお巡りさんの出番

警察には犯罪が起きたら捕まえるのは別に、地域社会の防犯、予防の役割がある。犯罪が起きる前に何とかする。そこは地域のお巡りさんの出番で、グレーゾーンにいるヤク中をまずは薬物依存の回復教習所にする。お巡りさんが「お前この頃おかしいなあ」と教習所に引っ張ってくる。起訴猶予にして、簡単に裁判に上げないようにね。教習所でもう一度、一から依存症について勉強させ、やめ方を教えるんだ。その方が現実的だろう。

でも、それができないんだ、日本っていう国は。どうしてなんだろう。日本の裁判所は全然ダメ、話にならない。弁護士にしろ検察官にしろ「こいつ、性懲りもなくまたやるだろうな」って本音では疑っている。裁判官も本音は同じ。「もう2度としません」と誓わせながら、嘘をつかせてる。本人は判決の時だけは本気でクスリやめようと思っているかもしれないが、一歩扉の外に出たら売人の所に足が向かっている。それがヤク中なんだ。裁判所で本人がいくら誓っても先のことは分からない。それでも「やめます」と嘘を言わせるのが日本の裁判所だ。

それに弁護士。いくら被告を弁護するのが仕事とはいえ、空しいと思うよ。「この被告、いつまでもつのかな。もう2度と弁護したくないなあ」って。検察官（検事）だって「お前、また来たのか」とか言って威張っている。そういうのを見ると、「だからあんたの仕事が成り立っているんじゃないか」って、ひねくれもののぼくは皮肉の一つも言いたくなるんだ。

●薬物問題はこの近藤にお任せを

ぼくは裁判所で情状証人に立つたびに、「検事さん、あんたの仕事を暇にしてやるから薬物依存問題は地域に任せなさいよ」と心の中でつぶやいている。「ヤク中の回復は地域で、ダルクでやりますよ。日本の薬物問題は、この近藤にお任せください」ってね。そうすると地域が活性化するよ（笑）。

だってダルクの人は壊れていても、その道の専門家だよ。ヤク中の当事者だから経験の蓄積が違うんだ。本人が（薬物を）やってるかどうかなんて、すぐ分かる。同じ仲間だから臭覚があって選別できる。これをうまく使いこなせたら、社会資源の有効活用じゃないの？ 人生の失敗がここではノウハウとして生きるんだ。こんな有意義なことはない。

こと薬物問題に関しては地域の人たちがサポートしていくことが大事なんだ。できることは自分たちでやろう、ってね。地域には医者や保護司がいる。アルコール依存者もいるし、プログラムもあるし、学校の先生も養護教員もいる。そういう関係者がネットワークを組んで知恵を出し合って、本人にふさわしい回復の在り方を模索してやること。

もともと薬物依存症なんて、簡単にはやめられない病気なんだ。治せる医者がいない。専門家を自認する医者でも何が何だか分からないのが、この病気の正体。でも、回復はできる。クスリを使わないでクリーンタイムを今日一日と積み重ねて、そうしてクスリに頼らない新しい人生を手に入れるんだ。（続く）

受刑者のみなさんからの手紙(潮騒通信を読んで)**■「回復の12ステップ」読んで心に変化**

私は昨年末から栗原さんに頂いた「回復の12のステップ」を毎朝、起床のチャイム鳴るまでの間、読んでいます。以前に「薬物依存の脳内メカニズム」を読んだことがあるのですが、これよりずっと希望が見える内容です。二読、三読して理解し、行動に移せるまで読み続けます。今までクスリに対して軽はずみな考えや、勝手すぎる判断によって大きな間違いをしてきました。私は今、全てを見直さなければならないし、無理な自信も捨てていこうと思います。クスリに対しては誰誰のせいで…という自己正当化が目立っていましたし、安定剤を飲んでいたので判断力が…という言い訳もありました。この本に目を通してわずかな期間なのに、私の幼稚すぎる考えや他人に対する恨みが、次第に薄れてくるのを感じています。

(東京都・ST)

■大切な家族がいるからまっとうになりたい

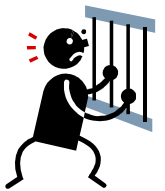
…(クスリの使用によって)信用は一瞬で失くしますが、その失くした信用を取り戻すには、とても時間や労力が他の人よりも何倍も何十倍も必要だと思います。(身元引受人の申請などで)多少なりとも、焦りがあるのは事実です。でも、人間は弱い生きものですから、焦りが出てしまうのは仕方のないものと私は考えています。薬物から足を洗い、まっとうになりたいと考えたのも、家族の事も含めてそうですが、そういう大切な存在があるからです。そうでなければ、薬物から足を洗い、断ち切ることも、大切な家族からも信用を得られないと思うのです。日々努力していれば、後から結果が付いてくるものだと思っています。

この世知辛いご時世ですから、理不尽さや何やらうまくいかないのは仕方のないことだと思います。だからこそ回復の原点となる己の無力を認めることが大事だと自分自身に言い聞かせています。(青森県・SA)

■来年52歳、人生立て直しの最終期に

潮騒通信によると「円満退寮者が初めて出た」とか。私もすごく驚きました。改めて依存症の真の回復は甘いものではないという事を、とても考えさせられました。(中略)私は来年52歳になります。今後、私の事、仕事の事を考えますと、老いていく私にとっては人生を立て直す最終の時期になりつつあるのではないかと実感しております。失くしてしまった家族や友人たち、そして社会的なもの。それらのことを一つでも多く取り戻したいです。そのためにも保護会にお世話になって、一刻も早く仕事を見つけ、まずは経済的に自立できるように努力するつもりです。

(長野県・HT)

**■今70人の中にいたら、人酔いしそう**

潮騒通信、手元に届きました。私が思っていた以上の活発な活動で、入寮者の皆さんが多いのも驚きました。私も早くプログラムに参加したいと心から思います。通信の写真には見知った顔もあり、なぜかホッとしています。逮捕されて半年。ずっと一人のために一人暮らしには慣れましたが、今70人の中にいたら、人酔いしそうです。そんな私の残刑も1年と1カ月、仮釈は無理にしても身元引受人の件ですが、お願いしてもよろしいですか？ 私も家族に袖を振られている身、話を聞いてくれるか心配です。施設長のお心遣いには本当に感謝しております。

(東京都・GK)

しおさい文芸コーナー

選者 桐本石見

別れあり出逢いもありて桜かな

潮騒・稔

日本人は桜が好きでその桜の頃に入学や転勤がある、それは出合でもあり別れの季節でもある、桜の花の一抹の寂しさと共に花吹雪は門出に相應しいかも。私にも、「桜待ち桜送りて種を蒔く」があり懐かしいが、桜は昔の農耕の時期の知らせでもある。

虚ろ眼の四四四デジタル春未明

潮騒・豊

これは難解な句で私の想像に余りますが、強いて申せば、春の未明に何かの都合で目覚めて時計でも見たのか、寝ぼけ眼の虚ろに四時四十四分とでも見たのか、四は死を暗示して古来忌み嫌うものの、春は木々の芽生えや恋の希望の季きだが反しての思いの句か。句意に添はなければ悪しからず。

断薬を皆で心願初詣

一郎

薬も酒も人間が造りその薬や酒に溺れるのも人間で、哀れとも、可笑しさも思う。初詣に恋や合格の祈願なら目出度いが禁酒、禁煙などの願いは神様もいささかお困りであろうが、句の作者には切実な人生の願いでもある、俳諧の哀れを籠めた句です。「心願」を誓願にして決意も示し、「断薬を皆で誓願初詣」が良いです。

冬の蛾や一夜の宿を求めをり

章三郎

真冬は虫も冬眠や卵など形を変えて生き残るが、冬の初めの暖かい日には時折蝶や蛾や蠅などが舞う、それを冬の蝶などと云う。その蛾などが夕暮にまだ寝場所も定まらず宿を求めると云う一句ですが、テレビの報道の無宿者をも思い哀れを籠めた一句です。

晩年の道真っ直ぐに寒に入る

章三郎

人生は死ぬまで勉強とも云い晩年の定義も難しいが、仕事もせず病身になると晩年と思うかも、それから先は迷うことも無い一本道だがそれも寂しい、人生はあれこれと迷い探りゆくのが楽しいのかも知れない。寒に入る季語も効いて切実な一句です。

うつされてうつして風邪の治りけり

章三郎

毎年冬になると風邪が流行り困惑しますが、私も今年はインフルエンザにかかり病院にいつて十日くらいで治った、この句の様に何処からかうつされたのだ。まあ誰かにうつすくらいで治るので良い。面白い俳諧の句です。

【短歌】

広行

欲深き人の心に雪積もる

道見失う雪の深さに

幸せになろうと夢を追いかけて

樂に生き行く近き道なし



入学発表知らぬふりして電話待つ

潮騒・稔

孫か子供さんの合格発表の日、本当は今日がその日だが知らぬふりをしている、万が一のこともあり内心は心配だ、それが親の心情と云うもの。「合格発表知らぬふりして電話待つ」のほうがいいのでは。

入試終へ孫軽ろやかに街に出る

潮騒・稔

入試の出来も良かったのか孫さんは気分良く街に出かける、それを眺める祖父も心が和むし安堵する、毎年の事ながら試験と云うのも人生の関所の様で心が重い、しかし越えなければならぬ。孫さんの姿を彷彿して微笑ましい一句です。

赤灯の点灯リズム春の宵

潮騒・豊

道路工事などの夜の警告灯に赤いランプが点されるがその点滅も一つのリズムで楽しい、今は震災後の工事が多く長い警告灯も道路の曲がりによってあるので見方を変えればこの句のようになる、面白く楽しい一句です。

福は内だけの叫びを笑ふ鬼

潮騒・豊

節分には鬼やらひと云う行事を行い豆撒きをする、福は内の声に鬼が笑うと云うのも面白い、そもそも人間界には鬼も同居する、その鬼にならぬ様苦労し努力するのも人である。俳諧の句です。私に「初閻魔地獄絵もまた仏世界」の句があり思い出す。

【短歌】

一郎

大雪に被災の皆に幸あれと

出雲の地より令掌の吾

月に二度届けられし母の文

窓に射す月慈母の面影



Information

3 月行事予定

- 17 日 北海道ダルク、とかちダルクフォーラム
- 17 日 秋元病院メッセージ
- 18 日 横浜ダルクセミナー
- 25 日 潮騒家族会
- 26 日 入寮者ボウリング大会
- 26 日 新宿とまり木相談
- 28 日 入寮者映画鑑賞

4 月主要行事予定

- 1 日 リカバリーパレード会議
- 8 日 秋元病院メッセージ
- 9 日 日帰り花見小旅行（古河総合公園）

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させて頂いております。どうぞご理解の程をお願いします。

編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34 号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10

TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム（中施設）

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56 号

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16

TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上播木 1113-39

TEL/0291-39-4872

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

3 月 献金・献品を戴いた方々

▼献金を戴いた方

島医院 様
米納 信治 様
斉藤 由美 様
（千葉菜の花家族会）
富井 健夫 様

▼献品を戴いた方

平田 幸子 様
中川 孝二 様
イルポートこぼり様
根本 芳光 様

今月も、上記の方々のほか、匿名の皆様から献品・献金をいただきました。ありがとうございます。

なお、本通信の5ページでも読者、支援者の皆様をお願いしていますように、物置などに眠ったまま使わなくなったパソコンがありましたら、献品頂けるよう宜しくお願い致します。

編集後記

例年よりも厳しい寒さのせいで、日課の散歩からしばらく遠ざかっている。いったん空白ができると、なかなか活動を再開するきっかけがつかめない。朝晩に糖尿病の薬を手放せなくなって久しいだけに、頭の中では焦りが伴う。糖尿病は合併症が怖い。本号7ページでチョーさんが回顧しているように、糖尿病はそれ自体は痛みも何もないので、なかなか自覚症状を持てない。しかし、どこか体に不安全感や違和感を持った時には要注意。知らず知らずのうちに、長年の蓄積から危険信号が発せられている。神経障害や網膜剥離などで足を失ったり、失明したり、人工透析の身になったり…。チョーさんは失明寸前になりながら運よく生還できたが、依存症の陰で糖尿病を甘く見たら、手痛いしっぺ返しが待っているかも。くれぐれもご用心、ご用心。（イチ）

発行所 郵便番号一五七一〇〇七三
東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
（会費を含む） 定価一〇〇円

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。